

大豊町の概要

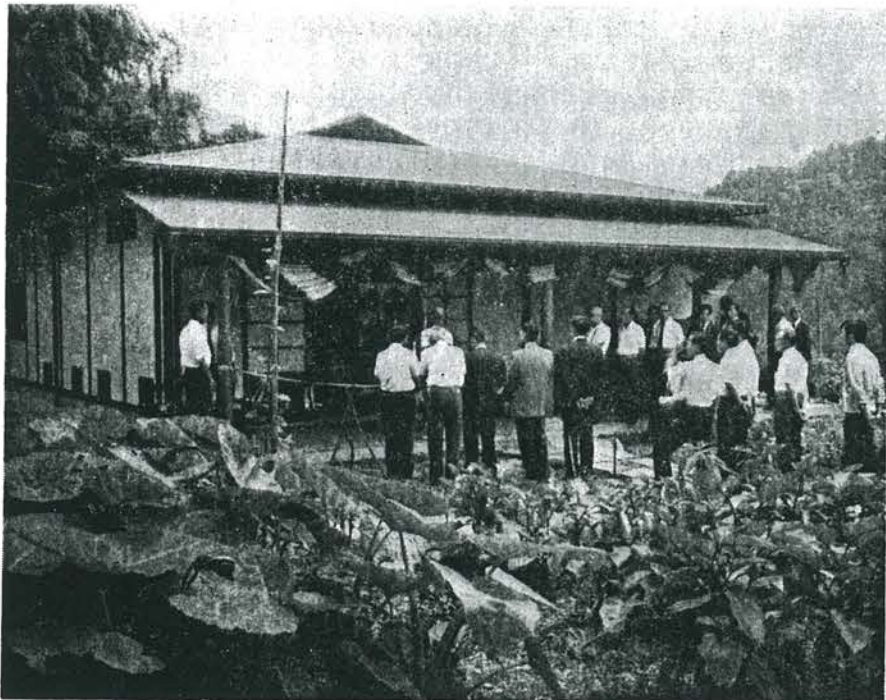
位置 東経 133度37分 北緯 33度56分
面積 320.54平方杆 東西 32杆
南北 28杆 部落数 87
人口 12,001 男 5,771 女 6,230
世帯数 3,660 (6月末現在住民基本台帳調)



昭和48年9月10日発行

全世帯配布

編集 館報大豊編集委員会
発行 大豊町中央公民館
印刷 高知印刷株式会社



先人の遺した民具ズラリ

民俗資料館がオープン

大豊町立民俗資料館は、七月十五日完成、内部の整備を終えて八月二日オープン。当初の計画では一般の民家(大豊の民家として特徴のあるもの)を譲り受けて移築する計画であったが適当な物件が見当たらず新築となったもの。

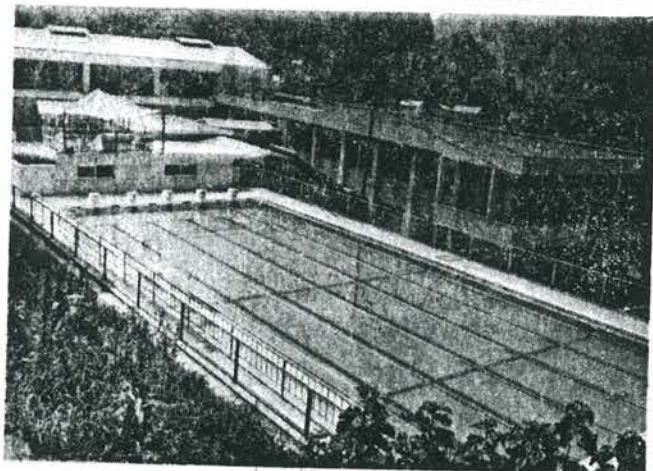
建物は本年三月十六日着工、「定福寺」が町に寄附した境内の畑を整備、木造平屋建百平方杆、屋根はアスファルトを材料にした赤色のシングルぶきと呼ばれる工法をとり入れ、ガラスの天窓に、床はレンガ造り。資料館の開設は毎週火曜日から日曜日までとし、毎週月曜日に休業するほか、教育委員会が必要と認めた場合は臨時に休業することとなる。

入場料は、条例の定めるところにより、大人一人一回五十円、小学生、高校生三十円、身体障害者手帳、老人手帳をお持ちの方は三十円、同伴する就学前幼児は無料、二十名を超える団体については、その入場料金の合計額の二割引きとなる。

豊永小プール完成

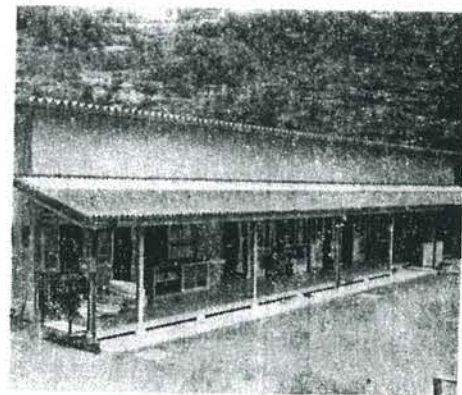
見事な立体美ほこる

去る五月十日に工を起した豊永小学校(松本猪飼校長)のプールが工費二十万円で七月三十日完成、八月六日、三十七度の猛暑の中で関係者多数により落成式を行ないました。



大田口保育所落成

大田口保育所の建築は工費一千六百万円で、小学校西隣に建築が決まり、二月二十六日着工、工事を急いでいたが完成したので七月二十一日関係者多数出席して落成式を行ないました。



立派に完成した大田口保育所

成功 第3回 嶺北総合美術展

日時 = 10月25日~29日 中央公民館で
・絵画の部(洋画、日本画)・書道の部・彫塑の部
・写真の部・工芸の部

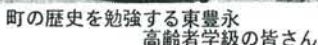
秋の全国交通安全運動 9月21日(金)~9月30日(日)まで

歩行者、とくに子どもや老人の事故防止を重点として、次の施策を中心に交通安全対策を徹底して実施する。

①スクール・ゾーンの整備充実 ②交通安全教育の充実強化

大豊町交通安全町民会議

21日までが老人福祉週間となっております。



とらせない

静かに縛につく

有隣を乗せた籠、豊永から高知へ

橋詰延寿

っていると、お前自身も同

「ソククの灯はそのまま燃えつづけたという。つまり、有隣は無言で彼の剣のすごさを示したものである。しかし彼は、捕吏に向つてはおとなしかった。」

2

永から高知へ
 ピイピーイイイイ笛を
 吹いて、おそろしいことで
 あった。有隣は捕吏の指揮
 者の捕縛に対して、静かに
 一刀を抜いて、ローソクの
 灯を三つに伏ったという。

の中間の林立峠を越えて最知へと行った。この道は長宗我部元親の四国制覇への道である。さらに南北朝の時代には尊良親王の妃が親王を追って土佐の国分に行ったため、この峠を往き、且つ廻られたとき、お休みに休まったという伝承の峠でもある。

敬老の日は、多年にわたってほしいものです。
特に県や町では「老人に

を敬愛し、長方を模つと共に、広く国民が老人の福祉について関心と理解を深めかつ、老人が自らの生活の向上に努める意欲を高める日です。老人自身も生きる意欲をいっそう高め、その知識と経験を社会に役立て

●老人のおかれている生活条件をととのえ、住みよい地域づくりをすすめる。公害、交通事故、そのほか老

大往生を期して

最後まで頑張ろう

若い人や健康な者は、文學者や変質者を除いて余りにも死について考える人は少ないと思うが、死は生きとし生ける者の免がれることと出来ない、公平普遍的な現実であることに間違いない。年老いて枯木の如く朽ち斃れるのは自然で文句はないが、年若く幾多の春秋を残し又一人の柱石が急逝するなど一測の悲慘が発生するのは悲しいことである。近代科学が急速に進展し、公害、交通事故等が頻発する世代では、若いから元氣だからというでも全く無縁でなく常に死の恐怖と戦慄にさらされているのである。死は誰人も免がれない必然であつて、又同時に死がなかつたら大変である。死を好む者は自殺者を除いて皆無だろが、そこを只合よく問引いてゆくことが死であり、自然淘汰であらう。それを最も無難に受けとめる方法は順着に死なむことであるが、事實はあまりにもそうゆかないから多くの悲劇と恐怖が生ずるのである。

今から百三十余年前、傑僧として有名な博多聖福寺

●老後のくらしと健康を高める運動をすすめる。安心して暮らせる老後のために年金、医療の充実及び住宅の確保、家族と好ましい人間関係を維持できる運動を進めると共に、老人自身も健康保持に努める。	●老人の役割と生きがいを考える。変りつつある家庭や社会の中における老人の役割をみんなで考え、またた老人自身も積極的に社会の一員として参加できるような個人、家庭、企業、地域社会、市町村、政府などのなすべき目標をあきらかにこれに取り組む。老人の幸せについては、家庭の思いやりや、社会の暖かい配慮が必要ですが、老人自身も生きがいのある生活を創造
--	--

されるよう願っています。
本年から、文部省では高師
者学級の制度をつくり、大
豊町でも、東豊水、天坪が
指定を受けて勉強しており
ます。

くらしの
行政相談

十月十四日から二十日まで、
で、全国一せいに「行政相
談週間」が開かれます。

くらしの
行政相談

大豊町連合婦人会で寛政集としておりました「大豊町連合婦人会」は、応募作品があまりにも少なく、選考がままならない状態ですので、協議の結果再募集することになりました。

応募作品の中には①朝刊には良いものもありましたが、全体としてまごまりのないもの。

②文字数が一定

募集

夢をそだてる町づく
り
山が重なるその山ぬ
うて
道が開ける西東
というふうに……。

募集要項は前回の要領
でお願いしますが、個人
として入選作がなかった
場合には、それぞれの作
品の中から抽出して、事
務局においてまとめるこ
とも考えられます。この

相談内容は、国等の行政に対するさまざまな不平や不満、意見や要望などで、役所の仕事について

◎デキパキやつてもらえない◎不親切である◎納得できない◎どうしてよいかわからない◎こうしてはしななどの苦情や不満をお持ちの方は、この機会にお気軽ににお申し出下さい

大豊町の行政相談委員と日渡氏は次の通りです

そこで再募集
の条件として、
文字数を一応、
七、七、七、五
など。

共合団に資金を配分することになります。

いずれにしても立派な大豊小唄。にしていたきたく再度募集致します。学生も含めてどなたでも結構ですからふるってご応募下さい。

△参考▽

起し導入
承し内容にふれる。
転し展開する。話題をかえる。

若者に負けじと角茂谷駅周辺の清掃作業をする
天坪高齢者学級の皆さんたち



◆十月十六日午前十一時から午後三時まで、役場会議室
◎相談委員佐竹繁晴（大
王下、有線三一〇六）

■編集後記

◆あちこちの盆踊りが終ると、秋のおとずれは早い。
◆盆休みをふるさとで過ごした人の数は史上最高とい

でお願いします
 例へば
 一、山のみどりを二つづ
 わけて
 流れ一すじ吉野川
 水の帯地の紫そめわ
 花が絵になる岩つつ
 じ
 二、杉は木どころ日本
 の

結ぶまとめ。

これにこだわることは
ありませんが参考まで
に。また小唄ですので、
一節一節に意味をもた
せ、次の節へのつながり
がなくても差し支えあり
ません。

◎締切〃十月三十一日ま
で

の住職仙牛禪師の死に対する考えは面白い。ある富家の建築家に招かれてお祝いの絵を乞われた。その祝に「今日日は誠に日出たいことである、この土地に千遍葬式を出して順番に死んで行け今日はその最初の日である」と書いた。へんなようだが考えてみるとそうでない。この土地と書いたのも意味深長である。親から譲り受けた土地を売って、はなれ家も段々と建て替えるであらうが次第に立派なものにせよ、人は死にとまがかるが死ななかつたら大変である。この家の親が死んで子供が死んで、孫という順序に死んで千遍の葬式を出すということは此の上もない幸福である。今日はその最初の日である」と解釈してみると誠に日出度い訳である。人生哲学の巧妙さはいくら表わした替である。

又この、仙牛禪師の死に対する感想も面白い。死の瞬間に書かれた書に「来る」ときは来る所を知り、去るときには去る所を知る、手を懸床に據せず、雲深くして所を知らず」これを解する人間が生れてきたら死ぬことを考える、就職の辞令を貰ったら退めたらどうするかを考えて置く、いふて退めてくることはない、最後まで頑張つて死に花を咲かせろということである。これは死を嫌悪する

ことではない、死を完うする姿勢だといえるだろう。仙崖禅師にはまだ面白い歌がある。「死期が来て死ぬ時なれば死ぬもよし、死ぬ時こなうて死なぬ尚よし」死にそこなうということとはまだ生きる条件が備わっているということである。それなら死ぬの必要はなない。出来るだけねばれというところである。又死の条件が揃ったらきっぱり死ねと教えたのである。

禅師が臨終の際弟子共が何か感想がありますかと尋ねたら「死にとうない」といわれた。且頭問はばからういわれていたんだから又父説が出ましたかと聞くところ「ほんねじゃ、ほんね

うこれらの人をちゃんと受け入れ、結構になくなって帰りに、それとおききだ、いもだ、豆だ、さては公告知らずのつくりみそまで手取り次第に持ち帰つて「や」といわれて息を引き取つたという。

悟り切つて禅三昧に解脫した高僧仙休・禪師の死生観も亦面白いと思う。靈魂は不滅と仏さまはいうが形骸は永遠に再現しないのが形骸から生き延びる間が花で、日常生活を大切に処理し、何時死んでも悔ない立派な當り人、ときどききりぎりすの生きたるを、人として恥じない道を遊び、大往生を期すべきだと思ふものである。

(立野 田村万石77歳)

ゆく。

◆戦時中の疎開、史上最悪の娼客客、ふるさとの包囲力のなんと偉大なことか、都会では「まね」もできまい。

◆自然のふるさとの良さ、大勢の人を受け入れ、微塵だにしない。ふるさとの勾容力の偉大さをつくづくと考える今日此の頃である。

◆ふるさととは遠きにありて思ふものというが、ふるさとにのこる者こそ、ふるさとをわすれてはなるまい、みんなでふるさを見直さうではないか

(中西)

